

大分地方気象台長からのごあいさつ



大分地方気象台のホームページをご覧ください、ありがとうございます。台長の酒井 亮太（さかいりょうた）です。令和7年4月で2年目となります。

大分地方気象台は、明治20年（1887年）に前身である大分測候所が気象業務を開始して以来、140年近い歴史を有しています。また、気象庁としては、前身である東京気象台が明治8年（1875年）に気象業務を開始して以来、令和7年（2025年）で150年を迎えます。



近年、地球温暖化の影響で毎年のように大雨に見舞われています。令和6年も台風第10号の影響で大分県の広い範囲で大雨となり、特に国東半島では記録的な大雨による河川の氾濫により大きな被害を受けました。被害に遭われた方々にはお見舞い申し上げます。今後も地球温暖化の進行により、自然災害の激甚化や頻発化が懸念されます。

令和6年8月に発生した日向灘の地震では、はじめて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。今回は幸いにも巨大地震の発生にはつながりませんでしたが、南海トラフ巨大地震は今後30年以内に発生する確率が80%程度まで高まっています。また、今からちょうど50年前の昭和50年（1975年）4月には、大分県中部の地震により大分県内で局地的に木造家屋が全壊する被害がありました。大分県でも大きな揺れが襲う地震が突発的に発生する可能性があります。

大分県内の活火山である「鶴見岳・伽藍岳」「九重山」「由布岳」は、現在は静穏な状態となっています。一方、これらの火山周辺には多くの住民が居住し観光地にもなっていることから、一度活動が活発となると社会や経済に大きな影響を及ぼすおそれがあります。

このような状況の中、大分地方気象台では、県や市町村等の関係機関と連携して、平時には防災に関する知識の普及啓発や防災意識の向上に努め、地域防災力の強化の取組を進めています。また、顕著な自然災害が発生、または発生が見込まれる場合には、適時・的確な防災情報を提供し、みなさまの早めの防災行動に役に立つ情報発信に努めています。

今後とも、みなさまから頼りにされる気象台となるよう、職員一丸となって、取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年4月 大分地方気象台長 酒井 亮太